



消防団とは

消防団とは、普段は様々な仕事に就いている住民が非常勤特別職の地方公務員として災害等に対応する組織です。

現在、郡上市の団員数は1,915人(内支援団員1001人)で、各方面隊が連携をとりながら活動を行っています。女性消

災害時の活動は

防団員は本部に19人在籍し、女性ならではのきめ細やかな対応で地域に密着した活動を行っています。

消火活動

火災が発生すると、自宅や職場から現場に駆けつけ、消火活動を行います。消防隊員よりも先に到着することもあるため、初期消火や消防隊員の後方支援などその場に応じた活動します。

救助活動

災害が起こった場合は、地域を知り尽くした消防団の救助活動は大きな力になります。大規模災害時には発生直後から地域と連携し、救助活動や避難誘導を行います。

水防活動

風水害の際には、河川等の警戒、土のう積みなどの防災活動を迅速に行います。また、消防職員と協力して住民の避難や救助を行います。

平常時の活動は

消火・防災訓練

火災現場を想定した訓練(放水訓練等)を行っています。各地域で開催される防災訓練にも積極的に参加しています。

防火啓発活動

地域を災害から守るためには、住民の防災意識の向上が不可欠です。このため、火災予防や防災啓発などを積極的に行っています。

救命講習会

住民がいざというとき、病气やケガに素早く対応できるように、AEDの使い方をはじめとした応急手当の普及・啓発を行っています。

団員インタビュー

消防団員のみなさんに聞いてみました。

Q1. 消防団に入ったきっかけは?

Q2. 平常時の活動は?

Q3. 消防団に入って良かったことは?

Q4. 市民のみなさんへメッセージをお願いします。



井上 慎也さん
(高鷲方面隊)
団歴 9年

- A1. 地元団員に誘われ地域を災害から守るため入団しました。
- A2. 毎月の機械器具点検、地域巡回を行っています。
- A3. 多くの仲間にも恵まれ、地域の人との交流が深まりました。
- A4. みなさん一緒に地域を守りましょう。



一柳 篤志さん
(美並方面隊)
団歴 4年

- A1. 先輩団員に誘われ入団しました。
- A2. 各種訓練の参加、機械器具点検を行っています。
- A3. 良き先輩に恵まれたことと、防災知識を得ることができました。
- A4. みなさん一緒に安心、安全な地域を作りましょう。



鈴木 博貴さん
(明宝方面隊)
団歴 4年

- A1. 地域に少しでも貢献できればと入団しました。
- A2. 月2回の巡回、消火栓の点検を行っています。
- A3. 地域の人とふれあう時間が増えました。
- A4. 私たち消防団は、自分たちの地域を守りたいという心を持って活動しています。今後ともよろしくお願いします。



岩尾 郷平さん
(和良方面隊)
団歴 2年

- A1. 地元団員に誘われ地域に協力しようと思入団しました。
- A2. 仕事柄市内を回ることが多いので、防火防災について目配りしています。
- A3. 地域の人たちと交流ができ、繋がりが強くなりました。
- A4. 火の用心、サンマ焼いても家焼くな。

消防団員募集

みなさん一緒に愛する郡上を守りませんか。

仕事をしながら、子どもを育てながら、地域の安全と安心のために力をあわせる消防団員。一人ひとりの想いと決意を地域みんなの笑顔に!

ファイヤーボランティア



ボランティア

入団手続等については左記または地元消防団員にお気軽にお問い合わせください。

消防本部消防課

67・1216

総務部総務課

67・1832 または各振興

事務所振興課

屋外での火の取り扱いについて



屋外の火災について

屋外での火の取り扱いによる火災は、市内で発生する火災の中でも毎年多くの割合を占めています。また、このような火災は、春と秋に集中して発生する傾向があり、理由としては次のようなことが考えられます。

■火災になりやすい気象状況

- 空気が乾燥する
- 風の強い日が多い

■火を使う機会が多くなる

- 山菜採りやレジャーでの入山
- 農作業

● 枯れ草の焼却

実際に、平成27年中に市内で発生した17件の火災のうち、6件が屋外での火の取り扱いによるもので、その全てが春と秋に発生しています。

このように、これからの時季は屋外での火の取り扱いによる枯れ草等の火災が発生する危険性が高くなります。特に今年、例年より乾燥することが考えられますので、より一層の注意をお願いします。

屋外での火災原因 (市内実例)

- たき火の消火のため、水を取りに行った間に付近の枯れ草に燃え移った
- 枯れ草等を焼却後、火が消えたと思い込み、その場を離れたことにより、付近の山林や建物に燃え移った
- たばこのポイ捨てにより枯れ草等に着火した
- 山中で喫煙、たばこの火種が落下し、落ち葉等に着火した
- 枯れ草等を焼却中、強風により予定以上に燃え広がったり、付近に飛び火した
- 野生動物を追い払うためロケット花火を使用したところ、落ち葉等に着火した



注意事項

屋外での火災原因を見てみると、ちよつとした不注意が原因のものが多く、注意して火の取り扱いをすることで防ぐことが可能です。

屋外での火災を防ぐために次のことに気を付けましょう。



◆燃えやすい物の近くで火を使わない

枯れ草等の近くで火を使えば、当然火災となる危険性も高くなります。そういった場所では、たき火等はもちろん、喫煙及び吸い殻のポイ捨て等は絶対にしないでください。

◆空気が乾燥し、風の強いときは屋外で火を使わない

このようなときは、周囲の枯れ草等に飛び火しやすく、火が広がってしまう可能性が高いため、火を使うことはやめましょう。

◆その場を離れない

火の取り扱い中にその場を離

れ、火災となることが多くあります。火の取り扱い中は絶対にその場を離れないよう責任を持って監視しましょう。

◆確実に消火をする

消火が不完全だった場合の残り火や、たばこ等の小さな火種は、時間が経ち、無人となった時に出火することが多く大変危険です。小さな火だからと油断せず、しっかりと消火をしましょう。

◆消火器具を準備しておく

もしも周囲の枯れ草等に引火してしまった場合、燃え広がる前に消火ができるよう、消火器や水バケツなどを事前に準備しておきましょう。

注意喚起の放送について

郡上市では、火災が発生しやすい気象条件となった場合に、音声告知放送等により「屋外での火の取り扱いについての注意喚起」の放送を行います。

注意喚起の放送があった場合は、屋外で火を取り扱うことを中止する、屋内において火を使用するときは、いつも以上に取り扱いに注意するなど、ご理解とご協力をお願いします。

消防本部予防課
67・1219

全国山火事予防運動

3月1日(火)～3月7日(月)

山火事予防統一標語

～誓います 森の安全 火の始末～

これまで紹介したとおり、これからの時季は山林火災等が発生しやすい気象状況となります。また、一度山林火災が発生すると被害が大きくなりやすく、貴重な森林を消失させ、その回復には多くの費用と時間がかかります。

郡上市の多くを占める森林は、自然環境の保全、土砂災害や洪水被害の防止、木材の供給といった私たちの生活に重要な役割を果たしています。かけがえのない森林を守るため、一人ひとりが火の取り扱いには十分注意して山火事を防ぎましょう。

火の用心

